

神戸市須磨区妙法寺地域の甲虫相*

——開発地域に囲まれた孤立地内の甲虫相——

高 橋 寿 郎

1978年の6月、神戸大学の奥谷禎一博士から須磨区内の妙法寺地域で車道が麻痺状態なので新に白川に抜ける自動車道建設の計画（藍那につながる道）があり、その付近の自然環境調査をするが手伝ってみてはどうかのお話があった。戦前多井畑から白川そして太山寺に至る地は昆虫の宝庫としてよく知られていた地域でもあり筆者も何回か採集に出掛けた地でもあった。戦後の開発で昔日の俤はなくなってしまっているがさらに今後もっと開発は進むであろうし残された現在の地がどんな状況であろうか、大きく期待は出来なくとも調べておくことは必要なことと思ひ喜んで一緒にさせて頂くことにした。

調査は主としてホームサービス側の方々によって一般採集、夜間採集、ライトトラップ、ピットフォールトラップ、マライセトラップによる採集が実施された。筆者も独自に数回採集に出かけたし、夜間採集には2回、ピットフォールトラップの回収に3回ホームサービス側の方々に同行させて頂いた。之等の調査結果はホームサービス側の手でまとめられて関係方面に提出されているが一般には入手出来ないし、集められた甲虫類の標本は全部同社の永井正身、荒木 裕両氏の御好意で筆者の手許に保管されているので、改めて甲虫についてのみ全部の標本の同定をやりその概要を記録しておきたいと考えた。

本文を草するに当たり、この調査機会を与えて下さった奥谷博士、調査その他種々の便宜を与えて下さった前記永井、荒木の御両氏並びにホームサービス側の方々に厚く御礼申しあげる。

調査地域内での甲虫相の概説

記録出来たものは47科226種であり、の中には兵庫県下から初めて記録出来た種を17種含んでいる。

調査地域内の植物相は大変単純な二次林で、通常の採集調査では全く目星しいものが得られず所謂平地性の普通種ばかりで、その上個体数が大変少いという状況であった。特に草食性、食樹性のグループ、クワガタムシ、コガネムシ、タマムシ、コメツキムシ、テントウムシ、カミキリムシ、ハムシ等は大変少い結果が出た。ただ調査地域内を5ヶ所選び、1ヶ所に50ヶ所のピットフォールトラップを埋設して1ヶ月に1回回収する方法でやった

調査結果で地表性、落葉下性のものが多く得られ、上記の如く県下で今迄記録のなかった種が可成り得られた。従って一見単純に見られる地域内でもこのような方法での調査方法はとり入れなくてはならないし微少地表性、落葉下性の種は相当棲息していることがわかり大変面白い結果が出たと思っている。

以上全種のリストは長文になるので省略するとして注目すべき種についてのみ説明しておきたい。

オサムシ科 (Carabidae)

28種記録出来た。このあたりだからヤコンオサムシは必ずいると考えられたが、冬期のオサムシ掘りでも夏期の野外での採集でも得られなかった。だがトラップで一挙に11♂、11♀が得られた(25—I—1979)。やはりいるのであるが仲々他の方法で得られないのでどの様な状態になっているのかよくわからない。夏期に於てもトラップをもう少々続けて見れば或は他のオサムシも得られるかも知れない(特にオオオサムシあたりいそうである)。マイマイカブリも今の所得られないが近接の白川地域では冬期オサムシ掘りで出てきている。ヒョウタンゴミムシ (*Clivima niponensis*) は今迄県下での産は余り知られていなかったように思われるがトラップで9 exs. 採集出来ている(26—I—1979)。この種もこの方法で採集すると割合いるのかも知れない。一般に地表性小形のゴミムシ類が個体数も案外と多くいることがわかった。尚ハンミョウ科 (*Cicindelidae*) は一種ニワハンミョウだけしか得られなかったがハンミョウもいると考えられる(隣接の白川地域では大変多くいるので——)。

エンマムシ科 (Histeridae)

2種しか得られていないがその内の1種アカアリズカエンマムシ (*Hetaerius gratus*) は特異な形態をしていてアリと共棲することが知られているがトラップで lex. 採集出来た(25—V—1979)。県下から初めての記録と考えられる。

ムクゲキノコムシ科 (Ptiliidae)

この科の県下産は大変少い(3種)。落葉下性の小形のため調査不十分なのだと思われる。ケシツブムクゲキノコムシ (*Acrotrichis sericans*) がトラップで lex. 採集出来ている(14—I—1979)。

* 兵庫県甲虫相資料 93

チビシテムシ科 (Catopidae)

この仲間の県下産も余り良く調べられていない。宍粟郡波賀町赤西溪谷あたりではこの仲間の珍しい種が可成り採集されているようである。トラップの材料に肉類の使用をしていないので一般にシテムシ類がほとんど採集出来ていない。従来県下に記録が無かったクリバネチビシテムシ (*Micronemadus pusillimus*) がトラップに lex. 入って採集出来た (25-I V-1979)。

コケムシ科 (Scydmaenidae)

落葉下性のこのグループの県下産の調査も極めて不十分である。現在県下産とわかっているのは3種しかない。シリプトヒメコケムシ (*Euconus fustiger*) も今迄県下から報告のなかった種でトラップに lex. 入った。(4-V III-1979)。

ハネカクシ科 (Staphylinidae)

28種が記録出来ている。いずれも小形の種が大変多い。ムナクボチビフトハネカクシ (*Euaesthetus nitidulus*, lex., 23-V I-1979), ムネアカキノコハネカクシ (*Lordithon simplex*, lex., 11-X I-1978, lex., 25-V II-1979), アカチャキノコハネカクシ (*Bolitobius prolongatus*, 3 exs., 22-II-1979) の3種は今迄記録のない種である。

アリヅカムシ科 (Pselaphidae)

この仲間は割合トラップに入ってくる。5種が記録出来ている。その中で次の2種は県下では今迄記録がなかった種と考えられる。フサヒゲアリヅカムシ (*Batrisceniola antennatus*, 2 exs., 25-I V-1979, 4 exs., V III-1979), フタアナムネトゲアリヅカムシ (*Coryphomus spinicollis* lex., 11-X I-1978)。

クワガタムシ科 (Luicandae)

1種。この地域ではほとんど採集出来ていない。植生からして当然と考えられる。

コガネムシ科 (Scarabaeidae)

16種が記録出来たにすぎない。この様な地域では余り期待出来ないと考えられる。ただ落葉下にいるマメダルマコガネ (*Panelus parvulus*) が割合いた (2 exs., 11-X I-1978, 6 exs., V III-1979)。この種は県下では淡路の諭鶴羽山と川西市笹部での産が知られているだけであるが、トラップをかければ神戸市内でも広く分布していると考えられる。

タマムシ科 (*Buprestidae*), 2種。コメツキムシ科 (*Elateridae*), 6種。ジョウカイボン科 (*Cantharidae*), 5種。これら3科に属するものは割合種類数が少かった。

ケシキスイ科 (Nitidulidae)

11種記録出来た。この様な地域としてはいる方かもし

れない。コクロムクゲケシキスイ (*Aethina inconspicua*, lex., 4-V-1978) は今迄県下に記録が無かったと思う。

カクホソカタムシ科 (Cerylonidae)

今迄県下から報告が無かったと思われる次の2種が採集出来ている。アシプトカクホソカタムシ (*Cerylon crassipes*, 4 exs., 26-I-1979), アナムネカクホソカタムシ (*Thyroderus porcatus*, lex., 26-I-1979)。

テントウムシ科 (Coccinellidae)

4種。割合種類が少ない。

テントウムシダマシ科 (Endomychidae)

2種。共にトラップに入っていた。余り普通には採集出来ない種である。フチトリツヤテントウダマシ (*Lycoperdina dux*, 2 exs., 11-X I-1978, lex., 7-X II-1978, 2 exs., 25-I V-1979), セグロツヤテントウダマシ (*Lycoperdina manderinea*, lex., 11-X I-1978, lex., 7-X II-1978, 3 exs., 26-I-1979, lex., 22-II-1979)。

ゴミムシダマシ科 (Teenbrionidae)

8種が記録出来ているが、特にベニモンキノコゴミムシダマシ (*Platydema subfascia*), オオエグリゴミムシダマシ (*Uloma excisa lewisi*), ユミアシオオゴミムシダマシ (*Stenis valgipes*), キマフリ (*Plesio-phthalmus nigrocyaneus*) 等は多くいた。

ナガクチキムシ科 (Melandryidae)

この科に属する種でトラップにて特異な種が採集出来ている。いずれ愛媛大学の宮武睦夫氏により発表して頂けると考えている。

アリモドキ科 (Anthicidae)

2種記録出来たが内1種はタナカホソアリモドキ (*Anthicus tanakai*, lex., 19-I X-1978) と同定すべき種ではないかと考えている。兵庫県では初めての種である。

カミキリムシ科 (Cerambycidae)

12種でまず普通種ばかりである。

ハシム科 (Chrysomellidae)

21種で特に変わったものはいなかった。キベリハムシ (*Oides bowringi*, lex., 26-V II-1978) が採集出来たがこのあたりの産は珍しいと思われる。

オトシブミ科 (*Attelabidae*), 7種。ゾウムシ科 (*Curculionidae*), 16種が記録出来ている。イコマケシツチゾウムシ (*Trachyphloeosoma sawadai*) は大阪産で記載された小形種であるが、兵庫県下初めての記録として割合採集出来ている (lex., 14-I X-1978, lex.,

11—X I—1978, lex., 22—II—1979, lex., 28—III—1979, 2 exs., 29—V—1979)。

キクイムシ科 (Scolytidae)

4種の記録であるが、トドマツ アトマル キクイムシ (*Drypocoetes striatus*) と同定出来る種が採集されている (lex., 23—V—1979)。

以上甲虫相の概略を説明して見た。特に記すべき甲虫相でないかもしれないが、兵庫県下の甲虫相という立場から眺めた場合、市内の開発された地域(住宅地、団地等)にぐるりを取り囲まれ残されたような所にも結構私達の普通にお目にかかれない虫達が棲息していることがわかり大変うれしく、こういった甲虫相が今後どの様に変ってゆくのか、或る期間毎に調べて見ると面白いのではないかと感じた。尚参考までにこの調査(期間1978年9月から1979年8月までの1年間)による他の主な点についてふれて見ると、この調査でいわゆる一般採集法で得られた昆虫類は10目、99科、276種であり、灯火誘引法で得られた昆虫類は6目、45科、150種あり、この中には蛾類14科、90種がふくまれている。この蛾類は一般採集法で得られた数には勿論全くふくまれていないものである。

5カ所に設置されたピットフォールトラップ法によって得られたものの内多い目の個体数を拾って見ると、粘管目 3,419 直翅目 983 膜翅目 13,030 鞘翅目(甲虫目) 1,361 クモ目 1,236 ダニ目 893という数になる。膜翅目というのは主としてアリ類である。またライトトラップ法(5地点)で得られたもの内個体数の多いのは双翅目 158, 膜翅目 43, マライセトラップ法(4地点)で得られたもの内個体数の多いものは 双翅目 5,720 膜翅目 267 半翅目 295。各地点、各方法による採集によっても場所的違い(僅かにある池の調査で水棲昆虫も若干別途得られている)、月別の違い等々種々の注目すべき状況もわかるが、概して甲虫類での傾向と同じように地表性、土壌性のものが主体をなした昆虫相であることがわかる。

(1981. May)